

ディスカッションでめざすこと

乳幼児期、学齢期、成人期に至るまでのライフステージに応じた切れ目のない支援体制、障がい児支援における縦横連携の強化を図る。

成長に応じて関わる支援機関の円滑なつながり（縦の連携）

- ①支援の節目となる、就学前から就学児・進学時・卒業時において、情報を適切に引き継ぐため、「情報共有の場」「情報共有のツール」「情報共有する人」という視点で、現在の取組を共有する。
- ②本人・支援者間をつなぐ情報共有ツール（サポートファイル等）を、より効果的に利用していくための方策を検討する。なお、サポートファイルは横の連携にも有効であり、縦横の両面から検討する必要もある。

同時期に関わる支援機関のつながり（横の連携）

- ①保育所・幼稚園・児童館・療育・医療保健等の間、あるいは、学校・あいキッズ・放課後等デイサービス等の間で、情報を適切に引き継ぐため、「情報共有の場」「情報共有のツール」「情報共有する人」という視点で、現在の取組を共有する。
- ②障がい児や発達に不安を抱える子どもだけでなく、それを取り巻く保護者や、障がい児のきょうだいを含む、家族全体を包括的に支援するための方策を検討する。

(1)連携の課題提出



特に、分野が異なる機関との連携における課題等を事務局にて集約。（個別ヒアリング、募集等）

(2)グループワーク



2グループに分かれ、事務局が用意したテーマや部会員から新たに挙げられたテーマで議論。

【就学前グループ】

療育センター、児発センター、健康推進課、保育運営課、児童館、子家総合センター

【就学後グループ】

特別支援学校、放課後等デイ、福祉事務所、指導室、地域教育力推進課

(3)全体発表



- ①各グループの代表が議論のテーマ・内容等を発表。
- ②持ち帰って検討できる課題があれば全体として整理。

(4)課題の検討



次の会議までに、持ち帰った課題を検討。

(5)【次回以降の部会】
検討結果等の報告

検討・進捗結果を報告。

(6)【次回以降の部会】
テーマを変えてのグループワーク

課題（テーマ）を変えるなど、(2)と同様に行っていく。

【例】児発と学校、児発と健康福祉センター、健康福祉センターと医療、保育園と学校